

平成 29(2017)年度デジタル公民館まっさき
活動方針
～平成 29(2017)年度事業計画より抜粋～

一般財団法人 高度映像情報センター
(A V C C)

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

I はじめに

高度映像情報センター(AVCC)は、創立以来約半世紀、『教育訓練・情報伝達における世界のリーダーとなろう!』という行動指針を掲げ活動してまいりました。この四半世紀は、ICTの普及とグローバル化が進み、私たちは「サイバースペース」という新たな空間を共有するようになり、サイバー空間での経済活動に参加し、教育や医療等での恩恵を受ける権利を手に入れましたが、「デジタル・ディバイド(digital divide)」という新たな「分断」にも直面することになりました。グローバル社会ではデジタル・ディバイド以外にも、民族や宗教による「分断」、国家間の「分断」、都会と地方の「分断」、貧富による「分断」、働き方による「分断」、シニアと若者の「分断」、といった様々な「分断」が顕著になってきています。変化が常態化、加速化し、「分断」が広がっていく世界で、「分断」を緩和する処方箋は何なのでしょう。今、「日本人に求められる力」は何なのでしょう。

AVCC は以下の三つの視点で、「日本人に求められる力」を掘り下げその向上に取り組めます。

(1)「コンピテンシー」を鍛える

学力の高い人が、必ずしも社会で活躍する訳ではありません。従前の学校教育・職業教育は、技術・知識・スキル・資格を積むアプローチに偏り学習成果には限界がありました。霞が関ナレッジスクエア(KK²)では、組織が求める成果を上げている人の行動特性(コンピテンシー)を明らかにし、それを身につける行動科学的なアプローチを行っています。物事を見る目、課題を設定し、客観的に判断し、実行するといった個人のコンピテンシーを鍛えます。

コンピテンシー項目分類 対比表									
KK ² コンピテンシー項目	Feel(人間関係力)				Think(知考力)				Act(実行力)
		① 自己認識力	② 感情マネジメント力	③ 共感力	④ コミュニケーション力	⑤ 状況把握力	⑥ 原因究明力	⑦ 選択決定力	⑧ リスク分析力
関連コンピテンシー項目	主体性 自己確信 組織へのコミットメント	柔軟性・順応性 人間関係構築	ストレスコントロール力	育成 働きかけ力 対人理解 チームワークと協力	顧客中心 発言力 インパクトと影響力 コミュニケーション	情報探求 状況把握力 概念思考 計画と組織立て	業務・ビジネス意識 専門能力 課題発見力	創造力 アイデアチーフ リレターシップ 問題解決	規律性 秩序重視 分析的思考 達成・成果志向 実行力

1) "Competency Based Requirement and Selection" Wood & Payne, Wiley, 1998
2) コンピテンシー・マネジメントの展開(ライル・スペンサー&シグナス・スペンサー)
3) 社会人基礎力(経産省)

KK²では、コンピテンシーを大きく3つ、Feel (人間力)、Think (知考力)、Act (行動力)、に分類しています。更にそれを9つの要素、自己認識力、感情マネジメント力、共感力、コミュニケーション力、状況把握力、原因究明力、選択決定力、リスク分析力、実行力に分けて明らかにしています。加えて、自己診断ができるコンピテンシー・チェック、様々なロールモデルからコンピテンシーを学べるエキスパート・スタジオなど、多くの学習プログラムが各要素で分類され、学ぶ事が出来るようになっています。KK²プログラムを是非ご活用ください。

(2)個人と社会の「レジリエンス」を高める

二つ目のポイントは、個人と社会の「レジリエンス」を高めることです。レジリエンスとは、「変化を受けとめ、しなやかに対応する力」と言われ「精神的回復力」「抵抗力」「復元力」「耐久力」などとも訳される心理学用語ですが、ジョージ.A.ボナーノという学者の「極度の不利な状況に直面しても、正常な平衡状態を維持することができる能力」という定義が一般的に使われています。

3.11 東日本大震災で被災された地域での「日本人の耐える姿」は記憶に新しいところですが、極度のストレス状況下では、レジリエンスがとても重要になります。厳しい状況を冷静に且つ客観的に受け止め、その状況に留まらず、すみやかにそしてしなやかに自己を確認回復し、他者と協力して、地域社会を復興させ、前へ進むという力が必要です。日本社会と日本人の「レジリエンス」は果たして高いのでしょうか？



KK²「デジタルサイネージ」映像より

「想定外」「今までに経験した事のない」、といった事象が増える今日、マニュアルや既成観念にとらわれずに、事実を見、自分の頭で考えて、その状況で正しいと思う行動をする、という事が、個人と社会のレジリエンスを向上させます。教育、学習、という事で言えば、単に「どうあるか」という知識や先例を覚えるだけでなく、「どうするか」と考える事や対処のしかたを学ぶといった事が、これからの日本人には必要です。

(3)「共同体感覚」を意識し育成する

共同体とは、家族、職場、地域、国家といった利益、目的を共にする人々の集団、つまりコミュニティの事です。より大きな共同体へと視野を向け貢献していく事が共同体感覚を持つために大切な事とされています。オーストリアの心理学者、アルフレッド・アドラーは、「共同体感覚は、人間に生まれつき備わった潜在的な可能性だが、意識して育成されなければならない」と述べています。

自分の行動ひとつひとつについて、「これは、自分の利益ばかりでなく、相手のためにもなるか。」
「これは、自分と相手の利益になるが、より大きな共同体にとってはどうか。」といった、個から社会へ、というアドラーの「共同体感覚を育成する」という考え方は、「自分さえ良ければ」「今が良ければ」といった傾向が強まる現在の日本人には学ぶべきものがあります。

KK² は『共に考え、共に学び、共に担う社会へ』というミッションを掲げ、この「共同体感覚の育成」に向けて幅広い世代の皆さまと学び、交流する場を設けるなど多くの取組みを進めています。



KK²しごと力向上ライブラリ「グローバル社会と日本人に求められる力」より

Ⅱ 震が関ナレッジスクエア(KK²)事業

(1)人と人の絆と地域の再生

～個人と社会の「レジリエンス」を高め、「共同体感覚」を育成します～

ー1 地域の自律した活動を後押しする「デジタル公民館まっさき」活動

3.11 東日本大震災で大きな被害を被った岩手県気仙地方を継続的に訪問し、都会から出向いたよそ者が地域住民の方々をまきこみ進めてきた「デジタル公民館まっさき」活動をきっかけに、大船渡市末崎町では、地区公民館(ふるさとセンター)をベースとした、住民の方々自身による自律したコミュニティ活動が芽生えつつあります。

今年度は、公民館で開催される地域の自律したコミュニティ活動を見守り、後押しをするというスタンスで、コミュニティ活動への参加要請があれば、それに出来るだけお応えする形で活動します。具体的には、

- ・ネットワーク環境(光回線、WiFi 環境、Web サーバ、メールサーバ、TV 会議)を維持継続する。
- ・ネットワーク経費を公民館事業費として予算獲得までの間は KK² が負担する。
- ・パソコンインターネット学習会(仮称)への参加要請には可能な限り応える。
- ・どこ竹まっさき竹とんぼグループ(仮称)への参加要請には可能な限り応える。
- ・公民館事業、コミュニティ活動への参加要請には可能な限り応える。

KK² は、「共同体感覚」の育成を目的としコミュニティ活動への参加者を募ります。

ー2 「レジリエンスを鍛えるプログラム」の開催

首都直下型の地震をはじめさまざまな自然災害の危険性、高度な情報化が進みストレスの多い社会で生きる人々に、人と人の交流の場を提供し絆を深め、レジリエンスを鍛えるプログラムを提供します。これまで、災害時に帰宅困難者となったという想定で見知らぬ者同士で助け合いながら一晩を過ごす体験をする「災強！震が関防災キャンプ～帰宅困難を体験して「防災体質」になろう～」や「“日常”の積み重ねが“非日常”を超える！」をテーマに、日々自分の心と体に向き合うことの大切さを実感できるプログラム「心と体のストレッチ～週末みんなで楽しくスッキリ～」、「命をつなぐポジティブ防災～2 日間で市民救助隊(CFR)隊員を訓練します～」などを開催してきました。



「心と体のストレッチ」開催風景



「防災キャンプ」開催風景

今年度は「防災」と「心」に焦点をあてたプログラムを企画・開催予定です。災害時に役立つ知恵とスキルを楽しく学び、参加者同士が交流するプログラム(開催予定回数 3~5 回/講師:鎌田修広さん 株式会社タフ・ジャパン代表取締役 予定)、また自分自身の心に向き合い、リフレッシュできるプログラムも開催予定です(開催予定回数 2~3 回開催予定/講師:調整中)。

ー3 「レジリエンスを鍛えるプログラム」コーディネート業務

2014 年度より KK² で開催した防災関連のプログラムの経験を活かし、企業から依頼を受け防災教育プログラムのコーディネート業務を行っています。マニュアルに沿った防災訓練ではなく、意識改革を主眼とした体感型訓練を実施し、有事に自分の頭で考え行動できる、また人とコミュニケーションをとり行動できることをテーマとした教育プログラムです。KK² アドバイザーメンバーの鎌田修広さん(株式会社タフ・ジャパン 代表取締役)にご協力いただき、今年度も実施予定です。

ー4 大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定締結

2015 年 2 月、千代田区と「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」を締結し、震災、水災等の災害により被災した千代田区内の帰宅困難者等を一時的に「エキスパート倶楽部」と「スタジオ」に受入協力を行います。

東日本大震災発災時に KK² として独自に帰宅困難者受入を行った経験を活かし、引き続き月 1 回の千代田区との防災無線訓練、年 1 回の実地訓練に加えて、マニュアルの整備、備品の充実等を図ります。また KK² の近隣施設・企業との連携についても、KK² が入居する霞が関コモンゲート管理組合を中心に連携を進める予定です。

帰宅困難者等受入にあたっては、現状以下の環境を整えています。

- ・千代田区災害対策危機管理課との専用無線の設置
- ・3 日分の水食料、毛布、携帯トイレなどの備蓄
- ・災害時特設公衆電話(4 回線)の設置
- ・大型ディスプレイからの災害情報番組の放送(最新の交通情報、被害情報などの提供)
- ・Wi-Fi回線の開放及びパソコンの無料貸与
- ・スマホや携帯電話の充電対応 など



2016 年 2 月 8 日開催 帰宅困難者等一時受入訓練風景

以上